

か'も

No.540

平成13年

6



主な内容

- 小池市長市政報告
・2台目の高規格救急車導入……………②③
- 7件を加茂市指定文化財に……………④⑤
- グループ登場・カメラスケッチ……………⑥
- 歯っぴいスマイル・やさしい医学……………⑦
- 加茂の風土記「狼毛・狹口・上条村の紙漉き」…⑧

市政報告

加茂市長 小池 清彦

二台目の高規格救急車の導入が決定いたしました。(五月十八日付 総務省消防庁よりの内示)

このたびの二台目の高規格救急車は、主として田上町の地域で活動することになります。

納入されて活動を開始する時期は、来年一月ころになる見込みです。このたびの導入により、加茂

お気軽においでください
市民と市長の「よもやま話」の日

六月二十九日(金)

午後一時三十分から行います
時間等については御相談ください

【受付・問い合わせ】 市役所3階 総務課広報広聴係
(☎52-0080 内線323)
までお願いします

職員採用試験のご案内

平成14年4月採用予定の加茂市職員と加茂市・田上町消防衛生組合職員の採用試験を行います。採用予定人員、受験資格などは左表のとおりです。

【申込書受付期間】

▼一般事務職、土木技術職および消防職の各上級試験：7月12日(木)まで。
▼一般事務職、土木技術職および消防職の各中級・初級、保育士試験：7月16日(月)から8月23日(木)まで。

【加茂市職員】

試験職種 採用予定人員 受験資格

一般事務職	合わせて4名程度	〔上級・中級・初級〕※
土木技術職	4名程度	〔上級・中級・初級〕※
保育士	1名程度	昭和49年4月2日以降に生まれた人で保育士資格取得者

【加茂市・田上町消防衛生組合職員】

消防職 2名程度 加茂市または田上町在住の男性、〔上級・中級・初級〕※

※ 上級・中級・初級とは、〔上級〕昭和49年4月2日から昭和55年4月1日まで、〔中級〕昭和53年4月2日から昭和57年4月1日まで、〔初級〕昭和55年4月2日から昭和59年4月1日まで生まれの人を表しています。
◆ 受験申し込みは、1試験職種に限りま

【二次試験日】

▼一般事務職、土木技術職、消防職の各上級試験：8月5日(日)
▼一般事務職、土木技術職、消防職の各中・初級、保育士試験：9月16日(日)
【提出書類・提出先・問い合わせ】
受験申込書は市役所総務課組織人事係にあります。試験についての詳しいことは組織人事係へお問い合わせください。(☎内線322)

市・田上町地域の救急の体制は、さらに一段と向上することになります。

所要経費は、三千七百三十二万一千円で、国から八百八十三万八千円の補助金が出ます。また、二千二百八十万円の起債（七年間）が認められます。

六月定例市議会

六月定例市議会は、今月十九日に招集されて二十八日までの予定で開かれます。

この議会に市長が当初提出した議案は、一般会計補正予算、各特別会計補正予算、条例の改正、人権擁護委員候補者の推薦など七件で、その主な内容は次のとおりです。

一般会計補正予算

今回一億九千九百四十六千円を増額して、予算の総額を百五十億三千九百四十六千円とするものです。

歳出の主な内容は、須田中央公園整備事業費六千四百二十万円、農業後継者育成費一千九百十三万円、小学校営繕費九百九十九万円、乳幼児医療費助成事業費五百三十三万円などの増額です。

これに充てる財源は、市債、繰入金、県支出金などです。

下水道事業特別会計補正予算

長期債元金償還金二億四千四百九十一万円などを増額し、長期債利子償還金六百八十二万円を減額して、予算の総額は二十九億五千三百九十一万六千円となります。

乳幼児の医療費助成に関する条例の改正など七件を審議

介護保険特別会計補正予算

前年度分一般会計繰入金等の精算により諸支出金四千三百六十八万円を増額して、予算の総額を十六億九千九百九十九万九千円とするものです。

老人保健特別会計補正予算

前年度分支払基金交付金等の精算により諸支出金一千六百四十四万円を増額して、予算の総額は三十一億一千八百二十万八千円となります。

乳幼児医療費助成の条例

現在、外来の医療費助成は満三歳に達した月までですが、九月一日から満四歳に達した月まで助成対象とする条例改正です。

中小企業特別小口資金融資条例

新潟中央銀行が五月十一日で営業を終了したので、同条例に規定の審査会委員などから同銀行分を削除する条例改正です。

人権擁護委員候補者の推薦

欠員が生じている同委員候補者として、廣野豊作氏（若宮町一・61歳）を新たに推薦することについて議会の同意を求めるものです。

未来へとどける 歴史的財産

鶴巻家住宅（黒水）など

7件を加茂市指定文化財に

加茂市教育委員会は、三・四月に有形文化財として七件を加茂市文化財に指定しました。指定された物件は、約七百年ほど前の木造坐像から近代の建築物、「蒲鉄」で親しまれた電車などです。ここでは、指定文化財（写真）とその説明をお伝えします。

▼鶴巻家住宅主屋

（鶴巻嶺二氏所有）

鶴巻家は、安政5年に黒水に居を移し、酒屋を始め、そして現在の居住地は明治八年に移ったものとされています。

この主屋は、木造二階建、切妻造、棧瓦葺、妻入で前面に庇が取り付けられ、ほぼ北面し、古い部分は庇より茶の間とところまでです。

一階の間取りは、西側は通り土間とし、大戸をつけてます。その通り土間に面して前より店・茶の間と続きます。茶の間部分のみ吹き抜けで二階がなく、通り土間と対面する形で床の間・仏間があります。主屋の東側は、前より奥の間・納戸・奥の寝間と三室配され、奥の寝間には小

▼鶴巻家住宅酒蔵

（鶴巻嶺二氏所有）

この酒蔵は、鉄筋コンクリート造二階建、切妻造、妻入です。

記録によると、大正元年に前身の建物が焼失し、以来仮設のままであったが、大正10年に鉄筋コンクリート造として完成したものです。

当時は同じ構造の建物がこの近辺にないため、当主が鉄筋コンクリート造を勉強し、技術者を東京から招いたものです。

壁体をコンクリート造とし、二階床組みは木造です。この二階木造床組みを支える内部柱は鉄筋コンクリート造であるが、一辺が20cmにも満たない方柱で、この柱の細かさが初期鉄筋コンクリート構造の理解度を表しています。

当時は大正12年に起きた関東大震災の前であり、全国的にはまだ煉瓦積み構法が主流であり、そのなかでの鉄筋コンクリート構造の出現は、当主の先駆的精神を十分に伺い知ることができ、貴重な事例です。

▼鶴巻家住宅旧七谷郵便局舎

（古川信三氏所有）

この局舎は、昭和10年に郵便取扱所から七谷郵便局に昇格した際に、当時の鶴巻家当主が私費で建てたもので、昭和56年まで使用されていた。

設計は県庁の技師に頼み、施工は名工といわれた加茂の佐藤定一棟梁

が当たりました。局舎は木造、棧瓦葺きで、一階事務室の範囲が二階建てで、その奥部の土間や応接室部は平屋建てで、その小屋裏は二階寄りの物置として設置されており、正面はほぼ北面し、正面中央に庇を設け、同じく頂部屋根はマンサード屋根をつけ、左右対称の意匠です。

外壁は下見板で窓の部分のみ横板とし、その上下は縦板羽目であり、上部はモルタル塗りとし、当時大変流行した意匠がそのまま残されており、ます。

昭和初期の郵便局舎がそのままの姿で残っている、極めて貴重な事例として高く評価できます。

（以上、前新潟県文化財保護指導員・加茂市史編集委員 山崎完二）

▼木造薬師如来坐像

（金泉寺所有）

この薬師如来は像高53・5cmのカツラ材・木造です。カツラ材は新潟県下の古像にしばしばみられる彫刻材料で、本像もこの地での作とみられ、本体に内刻りを施さず、両脚底を浅く刻るのみであるのも古風です。

本像で特に珍しいのは、その頭部に螺髪を刻まず、肉髻を巡る髪筋が頭頂の左右に別れて髪際中央に向かつて並行に流れる表現でしょう。

本像の製作は鎌倉時代も早い頃の作と推定され、小像であるが、南北朝の創建と伝える長福寺創建以前の

この地方の仏教文化を考えるうえで注目すべき一作といえましょう。

（元慶応義塾大学名誉教授

故・西川新次）

▼絹本着色両界曼荼羅

（金泉寺所有・非公開）

この二鋪の両界曼荼羅は、現図曼荼羅の諸尊を図像通りに配置して緑色を施しています。各尊像の描写に墨線を基本にしている点、平塗りの緑色で、色眼や色線、経綫を施さない点など、鎌倉時代に流布していた両界曼荼羅を基本に制作されていることが伺えます。地紋様に切金を用いている点も、伝統的な鎌倉仏画を伝承していることを示しています。

図像としては空海伝来の現図曼荼羅であり、新潟県内唯一の中世までさかのぼる両界曼荼羅であることは確認できました。

（上越教育大学助教授

・加茂市史編集委員 川村知行）

▼県内最古の木製電車

「モハー」 （加茂市所有）

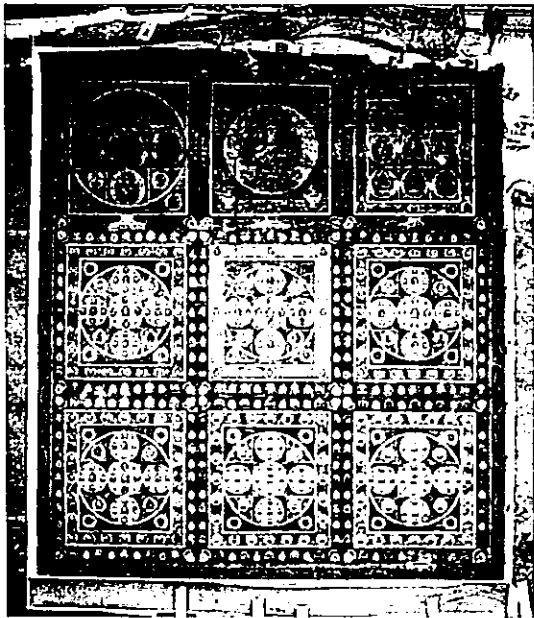
県内に保存されている木製の旅客用車両は、県立自然科学館に保存されている旧魚沼鉄道の明治末期に製造された客車（四輪車）一両のみで電気車の保存はこの電動客車「モハー」を除いて全く見られません。日本の鉄道車両は、大正末期から



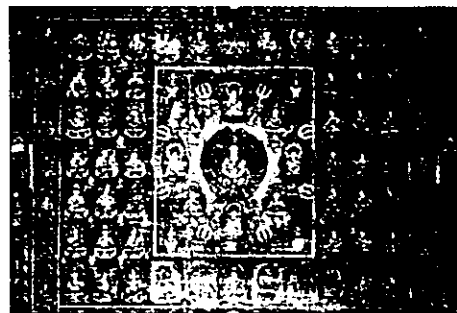
金泉寺 木像薬師如来坐像
(鎌倉時代前期)



鶴巻家住宅
上 主屋(明治8年建築)
下右 旧七谷郵便局舎
(昭和10年建築)
下左 酒蔵(大正10年建築)



絹本著色両界曼荼羅
左=金剛界・右=胎藏界
(鎌倉時代後期から南北朝時代)



昭和初期にかけて、ようやく木製から半鋼製に代わってきました。この電車は蒲田車両製造のもので、誕生してからわずか4年後に半鋼製時代を迎えます。

当初は五泉―村松間、その後昭和5年から昭和29年まで五泉―加茂間で運行され、加茂市民にも親しまれた電車です。

▼半鋼製電動客車「モハ61」
(加茂市所有)

この電車は昭和15年に日本鉄道自動車(株)での武蔵野鉄道の半鋼製制御車として製造されたもので、昭和初期の私鉄向きの標準型電車といえるもので、昭和33年1月に蒲原鉄道に譲渡する前に電動車に改造されたものです。

昭和33年から昭和60年に村松―加茂間が廃止されるまでと、その後平成10年に五泉―村松間が廃止されるまで運行され、「モハ1」とともに加茂市民に親しまれた電車です。

この種の電車は、昭和11年頃から16年頃にかけて多数製造されましたが、比較的新しい時代の製造のためか、製造以来60年を経過した現在、保存車両は全国的に見てもかなり数が少なくなっています。

(以上、鉄道史学会元理事
・加茂市史編纂委員 瀬古龍雄)

右 県内最古の木造電車

モハ1 大正12年製造

左 半鋼製電動客車

モハ61 昭和15年製造



グループ登場

みんな仲間

「桐」をキーワードに環境と次代を担う子どもたちのために活動している「心の苗を育てる会」(桑原隆会長・会員二十四名)の活動ぶりが、このたび地域づくり団体全国協議会が発行した「地域づくり団体・〇〇」という冊子に掲載されました。

これは協議会に登録された約四千団体の中から、特に活動が盛んで地域づくりに貢献している百団体が選ばれたもので、新潟県からは芸術・文化の部に佐渡赤泊の演劇研究会、産業振興の部に村上の町屋商人会とともに紹介されています。

私たち心の苗の会は、すでにNHKテレビの「小さな旅」で紹介されました。平成十一年には「子・詩コンテスト」を行い作品集を発刊、大変好評を得ています。しかし、このように全国的な規模の、しかも大きな書物で紹介されるのは初めてです。わずか二ページですが、きれいな写真入りですので、また反響が出てくると思われま

心の苗を育てる会

発足以来五年目の今年春の植樹祭は、みどりの目に小貫の桐畑で行いました。新潟、柏崎、白根など市内外のお子さんを含めると六十人以上の人たちが参加しました。この日は暖かく晴れ上がり、草刈りや施肥、殺虫剤散布、枝の剪定、根切り、ネームプレートへの付け替えなど、みんな一生懸命に汗だくで頑張りました。その後、はウグイスなど小鳥の鳴き声が出ると響きわたる中、楽しいパーティーで盛り上がり、疲れを吹き飛ばしました。

この植樹祭もテレビ局が取材され、ご覧いただいた方もお疲れいらつしやると思います。秋の植樹祭には、ぜひご参加ください！連絡は事務局の水井(五二二一八二)までお願いします。



カメラ スケッチ

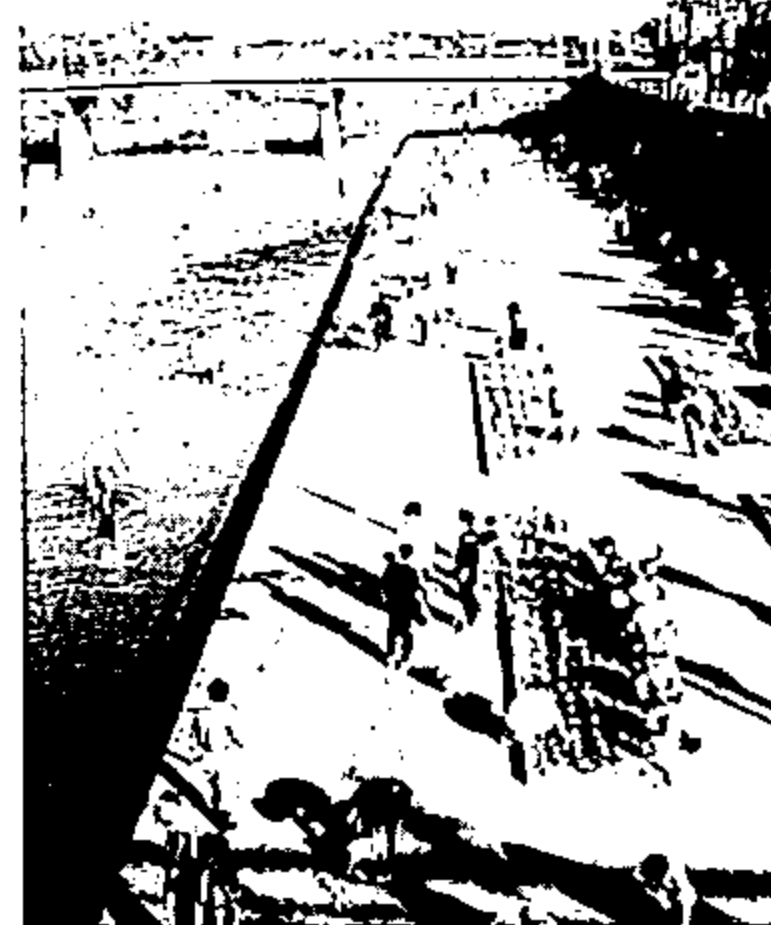
開館2年余で10万人入場を達成



六月一日、温水プールは十万人の入場者を迎えることができました。十万人目となったのは、志田あずささん(羽生田小四)で、前後に入場した戸松映美さん(加茂南小六)と長谷川亮くん(加茂小四)とともに記念品が贈られました。三人はアクアコミュニティ・選手育成コースに通っていて、今は泳ぎのフォームを中心に習っているそうです。

加茂川をきれいに

毎年六月の第一日曜日は、加茂川一斉清掃というのが定着しています。今年も雑草などを中心に集められました。参加者は約二千四百人。「あつという間に終わってしまいましたね」という声がかれました。



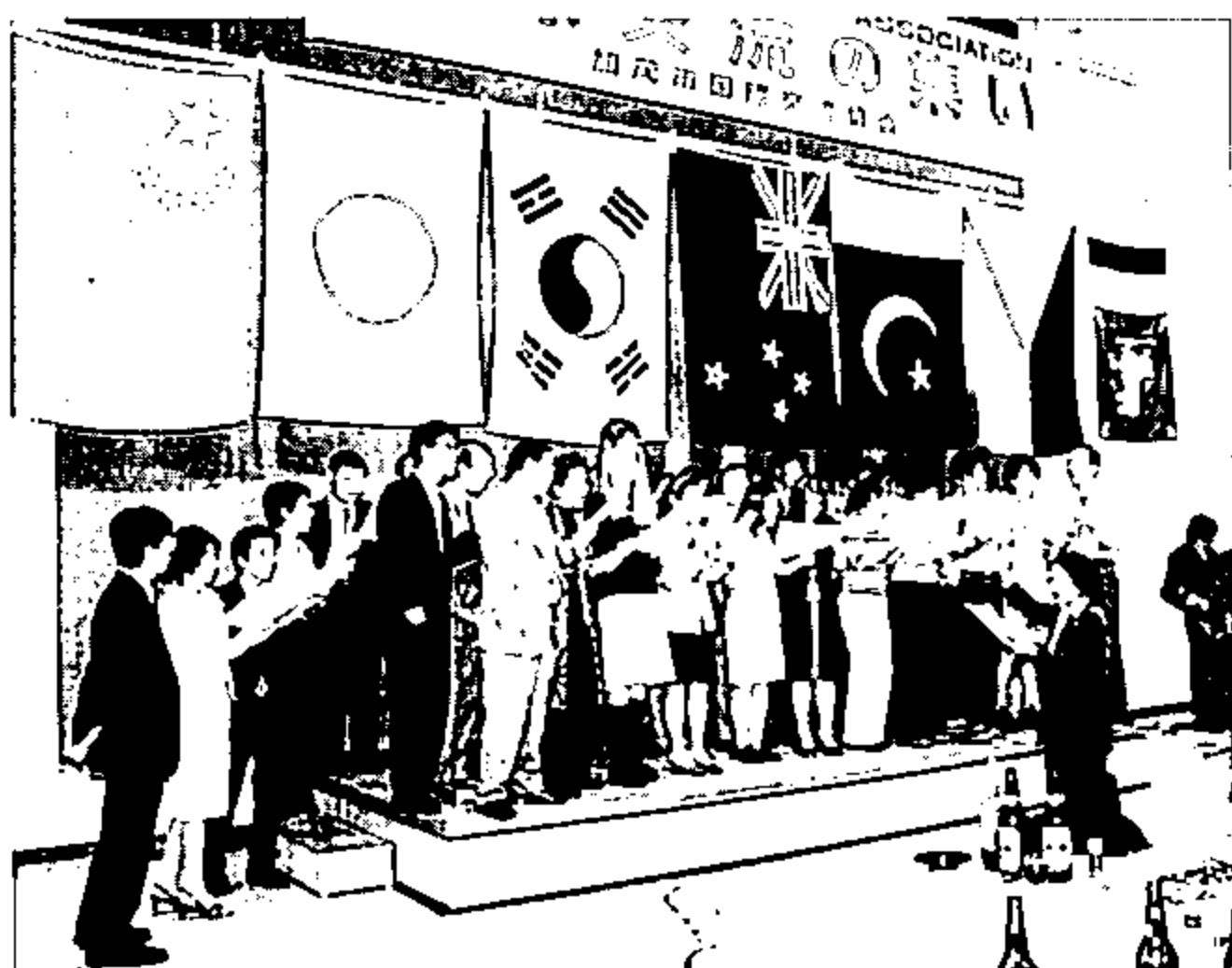
8回目を迎えた

国際交流の集い

六月一日、産業センターで「国際交流の集い」が開催されました。加茂市国際交流協会会長の小池市長は「加茂市はお互いの理解が深く、協力がうまくいっているまちです」とあいさつし、カタコトの英語・中国語・日本語が飛び交う、にぎやかなパーティーでした。

この集いの前に行われた協会総会では、今年度から新たに「外国人留学生・研修生支援手当」の事業が盛り込まれ、留学環境の安定と生活支援が進められます。

また今年も、七月九日からロシア・コムソモリスク市の子ども代表団が訪れる予定になっており、小・中学校の子どもたちの交流が広がります。



きれいな歯で明るいスマイル

歯っぴいスマイル加茂

六月三日、市役所市民ロビーで「歯っぴいスマイル加茂」がありました。毎年、歯の衛生週間にあわせて開催されてきた歯の無料健診をグレードアップし、もっと多くの人から来てもらおうと企画されたものです。

当日、歯科医による健診、歯科衛生士からのブラッシング指導、歯科技工士とつくる手型・絵づけが行われたほか、おやつ紹介、スマイル写真展示が開催され、赤ちゃんからお年寄りまで二百人以上が訪れました。歯科技工士による手型の作製は普段、歯型を採るパテで手型を



つくるアイデアです。パテの冷たい感触と、でき上がった自分の手の大きさにビックリする声をあげる子どもたちが多かったようです。

歯科健診を受けた人に聞くと「虫歯になって痛くならないと歯医者さんに行かないので、こういう機会はいろいろなことを聞くことができてよかったです」とか、親子で来られたお母さんは「歯科衛生士のブラッシング指導はとても勉強になりました。これからは子どもといっしょに歯みがきをします」と話してくれました。

歯医者さんには、苦い経験を待つ方も多いと思います。しか



し、この「歯っぴいスマイル」に協力していただいた加茂市歯科医師会の先生方は「痛くない・悪くないときに診てもらいうことも大切なのです」と話されています。

歯は、乳児からお年寄りまで大切なからだの一部です。健康な身体は健康な歯から、何気なくしている歯みがきも鏡を見ながら口の中を観察してみていますか。

やさしい医学

今回から五回ほど、糖尿病に関する話題を提供する予定です。今回は、すでに糖尿病の治療を受けている患者さんへのお知らせです。

今秋十月六日に、関東甲信越糖尿病セミナー（一都九県における糖尿病の患者さんを対象とする勉強会）が新潟市で開催されることになりました。昨年五

糖尿病について その1

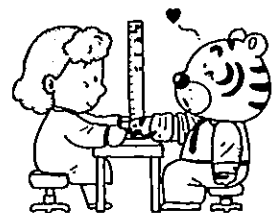
月に県内の糖尿病専門医を中心とした実行委員会が発足し、近々ようやくプログラムができあがる運びとなりましたのでお知らせいたします。

第二十回の本会を開催するにあたり、テーマを「今、変わるChallenge and Change」と決め、ロゴマークを作成しました。このコンセプトは

challenge = 挑戦のCとchange = 変革のCをデザイン化し、中心のボタンは新しい風、階段を象徴的に表現しており、挑戦と変革が新しい「風」

を起し、糖尿病に対して一歩新しい階段を昇り、糖尿病と上手につきあっているとう願いを込めたものです。

プログラムは、午前は糖尿病の治療の変遷と二十一世紀に向けての夢のテーマに講演をいた



だき、患者さんにとって、どのような医療がベストなのかを討論していただきます。午後は二つの会場を使い、患者さんにも参加してもらうトークセミナーを行います。昼食はコシヒカリを使った約六百キロカロリーの弁当を用意いたします。糖尿病の患者さんや家族に限らず、一般の方々が参加しても理解できるようにセミナーにしたいと思っております。皆さまの多数のご参加をお待ち申し上げます。

（加茂市医師会）

猿毛・狭口・上条村の紙漉き

かみす

江戸時代の加茂周辺で紙漉き（和紙作り）が行われた地域は、七谷や下田が有名である。一方、七谷と加茂とを結ぶ、猿毛・狭口・上条村でも紙漉きが行われていたことはあまり知られていないが、いくつか散見できる史料があるので紹介したい。

これまでの調査では猿毛・狭口・上条における紙漉きの記録は、享保二年（一七・七）十一月の新発田藩の記録（新発田市立図書館所蔵文書）が最も古い。

これには同年秋に三カ村の紙漉き百姓から出されていた、年貢としての御用紙の米換算額見直し

加茂の風土記

猿毛・狭口・上条の紙漉き
 一、猿毛の紙漉き
 一、狭口の紙漉き
 一、上条の紙漉き
 一、猿毛・狭口・上条の紙漉き
 一、猿毛の紙漉き
 一、狭口の紙漉き
 一、上条の紙漉き
 一、猿毛・狭口・上条の紙漉き
 一、猿毛の紙漉き
 一、狭口の紙漉き
 一、上条の紙漉き

し願いが、猿毛・狭口は代米四斗に、上条村は厚紙であったことから代米四斗五升五斗にそれぞれ決定し、その年の年貢から運用されたことが出ている。これらから江戸時代中頃の狭口などでも紙漉きが行われていたことが分かるが、残存史料が乏しいため、この後、この地域の紙漉きのことは寛政期及び幕末期のことしか判明しない。

加茂周辺の地域が幕府領となつた後の寛政八年（一七九六）新発田藩では紙の原料である楮の不足から、現在の北蒲原から南蒲原にかけての領内の堤通り

に、楮の植付けを奨励している。また翌九年八月にはこれを徹底させるため、加茂組大庄屋の明田川吉次を係役に任命している。これは楮の供給を確保するため、自ら行ったもので、この動きは幕末まで続き、弘化二年正月 中大谷村や猿毛・狭口村の紙漉き一同の議定書（下田村大谷地・金子信夫氏所蔵文書）



和紙の原料「楮」（こうぞ）
 （加茂市民俗資料館）

同藩領横場新田名主古田九蔵は狭口村に拠点を置いて、鶴森組や中之島組・中之口組などで生産した楮を集め、下田の大谷地など紙漉き村に販売供給し、楮不足を支えていた。

また、幕末期になると楮流通系統は、町や村方に楮仲買が発生するなど重層化し、白村だけの取決めでは楮価格安定の効果は現れず、下田・七谷や狭口など、領地を越えた近郷紙漉き村々を取り込んだ協定が結ばれるに及んでいる。

写真に示した弘化二年（一八四五）正月の議定書は、村松藩領の紙漉き村のほかに猿毛・狭口村の紙漉きも加わって、楮価格高騰に対する対処策を取り決めたものである。これには七谷の村々のほかに、猿毛村や小貫村・駒岡村・足ノ出村と表記された狭口村の紙漉き百姓も連名に加わっている。今は遠い昔となった紙漉きの話である。

（関 正平）



6月3日 加茂川一斉清掃より

あけましておめでとう

訂正とおわび

広報かも5月号（No.539）の16ページに掲載の「加茂の風土記 北越第一の漢詩人 銀田鴨背先生」の文中に文字の誤りがありました。

▼一、段四行目（誤）俟↓（正）俵
 このように訂正し、おわびします。

▼二、梅若勸寿恵さんから 五万円
 万四千九百八十九円

▼三、メーデー実行委員会から
 万四千九百八十九円

人口のうごき

6月1日現在

世帯	9,799 (-11)
人口	33,665 (-23)
男	16,311 (-13)
女	17,354 (-10)

()内は前月比

(5月異動分)

出生	21 (男11 女10)
死亡	25 (男10 女15)
転出	72
転入	53

発行 加茂市役所 新加茂市役所 加茂市役所 加茂市役所 加茂市役所
 編集 総務課 印刷 小野塚印刷所